

令和7年度 地域連携推進会議（さくら千手園・山桜） 議事録
(さくら福寿苑の運営推進会議とも合同開催)

◎日 時 令和7年9月30日 15：00～16：30

◎開催場所 さくら千手園 多目的ホール

◎出席者 さくら千手園 利用者代表
山 桜 利用者代表
さくら千手園 家族代表
山桜 家族代表
市町村職員 佐倉市障害福祉課
地域の関係者 ユーカリが丘地区社会福祉協議会副会長
さくら千手園・山桜 管理者
さくら千手園 サービス管理責任者
山桜 サービス管理責任者
さくら千手園・山桜 支援員
※上記の他、運営推進会議への出席者

◎書記 さくら千手園支援員

◎会議内容

1. 挨拶および事務連絡（さくら千手園管理者より）

本日はご出席いただきありがとうございます。

昨年度の報酬改定において、居住系の障害者支援施設やグループホームでは、地域連携推進会議の開催が義務付けられました。（令和7年度から義務化）この地域連携推進会議は、施設と地域の連携や利用者と地域の関係づくりが目的ですので、日ごろの思いやご意見を自由に発言していただければと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

はじめに、いくつか注意点をお話させていただきます。

・会議内で知り得た情報の秘密保持について

本日の会議で知った個人情報等については、外部に漏らすことがないようにご配慮ください。（参加承諾書等の記載のとおり）

・会議資料について

会議で使用した資料（事故報告）については、終了後に回収します。

・会議の議事録の扱いについて

会議終了後に議事録を作成し、公表することが義務付けられています。当事業所では法人のホームページで公表します。

議事録の内容について、公表前に皆さんの発言の内容について同意をいただくため、メールにて

内容の確認をお願いしますのでご協力をお願いします。

それでは、これより会議を開催しますが、今年度に限り、さくら福寿苑の転用やさくら千手園の定員削減の案件がありますので、障害者支援施設「さくら千手園」と共同生活援助事業所「山桜」の地域連携推進会議および地域密着型特別養護老人ホーム「さくら福寿苑」の運営推進会議を合同で開催させていただきます。よろしくお願ひいたします。

2. 出席者の紹介

自己紹介

3. 事業所の紹介

日常生活についてのビデオを放映しながら内容について説明。さくら千手園は活動・移動・食事風景。山桜については朝の出勤風景・夕食の様子。その他は資料に基づき説明する。

利用者代表者への質疑応答

地域：和紙を作っているということだが、作成した和紙はどうしているのか。

→以前は作成した紙で名刺を作っていた。今は量を生産出来ないこともあります、行事の際のお品書きなどに利用している。

山桜利用者：南部よもぎの園の仕事を頑張っています。

さくら千手園利用者：家に帰りたい。洗濯畳みの仕事は大変。

→管理者：家族の事情で今は中々帰れない状況となっている。また、洗濯畳みの仕事は日によって量に差がある。

4. 権利擁護・サービスの質の向上のための取り組み

研修の参加状況・非常災害訓練の実施状況・事故事例とその対応などを資料に基づき説明。

非常災害訓練の実施状況

→入所施設の規定に則り、年間3回以上利用者が実際に避難を伴う避難訓練（消火訓練を含む）を実施しています。また、毎年秋頃に総合防災訓練を行っており、今年度は10月10日に実施予定となっています。日中は職員を対象とした救命救急講習や防災に関する講話や演習、事業所内の消防設備の実演を行い、有事の状況に備えています。また、災害用のBCPに沿った訓練も実施しています。（土砂災害を想定した垂直避難訓練など）

事故事例とその対応

→事故報告書の説明。頭部の怪我については、保護帽子の着用を嫌がるため、色をカタログで一緒に選んだ。

→身体機能が落ちた方については、今後の事故防止のために理学療法士に身体状況の確認とプログラム作成をお願いしている。

質疑応答

地域：研修一覧より、こんなに行っているのは驚いた。アンガーマネジメントやBCPについての説明を受けたい。

管理者：事業継続計画（B C P）については、災害などにより損害を受けた際、なるべく早く元の事業運営するための計画で、その為の計画を受けて研修を行っている。

アンガーマネジメントは、怒りのコントロール。利用者支援においては、感情的になると虐待にもつながりかねないため、その際に自分をコントロールする術を学ぶための研修。

(運営推進会議→資料参照)

5. 次年度からの事業展開について

さくら福寿苑 管理者より ※資料参照

転居を進めており、現在はS・S利用が3名、スポットで1名、介護保険利用者が4名の計8名で10月から1ユニット10名で運営していく予定。4名のうち1名はさくら千手園を利用していた方で、このまま障害のグループホームに転用となった際に利用変更をしていき、他3名は他施設の入所申し込みをしている。

施設内はバリアフリーとなっており、車椅子の方や身体的に機能が落ちたかたも安心して利用ができるように準備をすすめている。

さくら千手園 管理者より ※資料参照

現在、近隣の高齢者施設のご協力により、当初予定していたよりも順調に移行が進んでいる状況。

人選については、まず地域移行の確認を全利用者とご家族にとっている。その後、希望があった方については個別に面談を行いながら選考していった。

さくら千手園から16名の利用者が移行することにより、入所待機している方の利用を再検討していくことになる。また、さくら千手園の建物は30年を超えており、50年を目途に立て替えを検討していくことになります。敷地の問題もありますが、強度行動障害をもつ方の支援が求められているため、40名に定員を減らす中で、9名のショートステイを本館で受け、ブラボーハウスについては強度行動障害をもった方についての受け皿として使用できるのか等検討していく予定。

現在のさくら千手園の日課については、入浴が半日を占めている状況。活動を広げ、栄養摂取以外にも楽しんで食べられるような給食の提供をすすめていきたい。

全体の質疑応答

家族：山桜の家族になります。今、義理の弟は楽しく過ごしているということです。今現在、障害を経験していない職員への今後の対応についてはどうなっているのか。

管理者：さくら千手園の支援員が男女2名ずつ、日中支援型のグループホームに転用した際に異動する予定。現に、障害に移行する場合は退職を希望する介護職員もいたが、事業所間で研修を実施し、まずは接してみるなどの経験を積んでもらいます。皆さん、興味をもって体験に取り組んでくれている状況。

家族：建物の建て替えはあと10年だと思われますが、将来的にどのような建物にするのか確認したい。

管理者：まず、10億程度はかかると言われている資金を貯める必要があります。環境については、見通し易さなどを考えている。具体的な段取りなどの時期になりましたら、ご家族の皆さまにもご意見をいただければと思います。

家族：利用者さんの事業変更については、どのような流れで実施しているのか。第一希望が通るのか。

管理者：先方とのやりとりについては、現在見学などのやりとりを実施しており、現在のところは第一希望で実施出来ている状況。

管理者：山桜については、さくら千手園が現在のバックアップ施設になっているが、次年度については里桜になる予定です。

地域：地域連携としてすすめる上で、千手会フェスタなどにどう生かすのか。

管理者：地域連携推進会議は、冒頭でも話をしましたが、閉鎖的になりがちな入所施設に向けての会議になります。千手会フェスタは地域に開かれた行事ですので、今後も地域とのつながりを大切にしながら実施していきたいと考えています。

6. その他

次回は3月3日、10日（火曜日）を予定したいと考えている。詳しい日程については今後調整していく。また、次回は事業所内の見学を予定している。今回の議事録については、さくら千手園のホームページに掲載していく。